

日高の調教場では、利用者の方々のご要望に応じて、本年も7~8月の2ヵ月間、サマータイムを実施しました。また、7~9月にかけて、屋内直線馬場の東側走路のウッドチップ補充、1,200m直線砂馬場の路盤改修、南地区から屋内直線馬場に通じる馬道の改修等の工事を行い、利用者の方々には大変ご不便をおかけいたしました。今後とも調教場の安全性の向上等に努めてまいります。

当センター研修生は、7月の浦河競馬出場馬の管理、8月の牧場実習、9月からはJRA育成馬の馴致実習等、日々研修に励んでおります。また、一人でも多くの方々に研修事業を知っていただくよう、「優駿」8月号に「BTCで夢を掴もう！」が掲載され、グリーンチャンネルでは「BTC特番」が8月に放送されるなど、各種情報媒体等を利用して広報活動にも努めております。なお、次期研修生(第27期)の応募締切が10月10日と迫っております、多数の応募をお待ちしております。(Y.H.)

本年4月1日付でBTC採用となり、日高事業所に勤務する新人2名をご紹介します。軽種馬診療所に配属された日高修平さんは新規採用獣医師で、軽種馬の日常診療を行います。また、山下真維さんはBTC育成調教技術者養成研修受講者の世話をします。若い新人の活躍に期待したいと思っておりますので、ご支援のほどよろしく願いいたします。

「たづな」欄は、JRAの定期異動により日高育成牧場長に就任された朝井 洋場長に専門分野である馬の栄養のみならず、長年培われてきた生産地での調査、試験研究に基づいた経験から、低迷傾向にある軽種馬生産界に対して現状と今後の方向性を語っていただきました。丈夫で強く魅力的な馬づくりに役立つことと思っております。

科学の箱馬車では、馬の血液の特徴について臨床検査の観点から、明治薬科大学 深瀬 徹准教授に分かり易く解説していただきました。サラブレッドの走能力の高い理由がお分かりいただけましたことと思っております。また、調査・研究の欄には、生産地では余り認識されていない慢性蹄葉炎から続発する蹄葉炎型不同蹄について、JRA競走馬総合研究所臨床医学研究室の桑野睦敏主任研究役に分かり易く解説していただきました。名馬も蹄に問題があればアスリートとして十分に走能力を発揮できませんので、護蹄管理の参考にして下さい。

研修生関連のページでは、競馬や馬に関心のある若い方々の参考になればと思い、本年4月に開講したBTC育成調教技術者養成研修第26期生6名にこれまでの所感を、また研修修了者の皆さんからは就労先からメッセージを頂きました。(T.Y.)